

## 東京研修

私はこの二日間という短い時間の中で、私のこれからの人生を大きく左右させてしまうほどのたくさんの方のことを学んだ。

今回の研修で私は、三菱商事と防衛省に企業見学をさせていただいた。全くジャンルの違う二つの就職先であるが、双方で私たちにお話していただいたことは、『英語』が本当に大切であるということである。ということであった。どんなジャンルの職業であっても、グローバル社会になりつつある日本では、日本語だけでなく国際的に使用されている英語を話すことができるのは、当たり前である。と言われ私は、とても衝撃を受けた。私は、英語はそこまで得意なわけではない。どちらかというと苦手である。だからといって英語を学ぶことは嫌いではないが、実際このような研修で英語が話せる。ということの重要性を改めて知ると、このままではまずいという焦りが生まれた。しかし三菱商事の方はそんな焦りや不安をかきけすようなアドバイスをしてくださった。どのように英語だけでなくあらゆる外国語を学ぶのがいいか。それは、学びたい言語で書かれた本を読むことであった。わからない単語があったら、辞書で調べる。すると、単語の意味が分かる。本に書いてある内容が理解できる。理解できるとうれしい。うれしいからまた読む。この善のサイクルが生まれ、外国語を学びたいという意識や、正しい外国語の使い方を学ぶことができると、教えていただいた。

また、外国語を学ぶことで外国に訪れたとき言語に不自由しないためその国をみる視野が広がるほか、その国と日本との生活の様式や常識がどのように違うか。さらには、日本の良さや外国の良さといった様々なことが学べる。

こういった点からも英語が話せるということの重要性がわかるのではないだろうか。次に、『粘り強さ』を身につけることの重要性というものを教えていただいた。スポーツでも学習においても自分で限界を決めてしまい、諦め、自分の成長の可能性を小さくしてしまうのはもったいないことである。私は、ソフトテニス部に所属しているのだが、このスポーツはとても『粘り強さ』が必要とされるスポーツである。私は、正直粘り強さがしっかりと身につけているとは言えない。相手が打ったショットを走れば追いつくのに諦めてしまったり、練習を自分ができるようになるまで続けなかつたりと、諦めてしまうことが多々ある。どうして追いつけないと考えてしまうのか。どうしたら自分の思い描いているようなショットが打てるようになるのか。物事の解決方法を考えるくせを身につけ、自分の可能性に限界を決めつけないためにも、『粘り強さ』がしっかりと身についた人間になりたいと思う。

諦めないようにするために、自分で目標を決めることが大切である。ということも学んだ。自分で目標を決めるのは、難しいことであるが、しがしそこに向かって頑張ることで自分の夢が叶う。設定した夢と今を直線で結び今から自分がなにをすべきなのか。なにを頑張ればいいのか。自分の将来の夢を叶えるための手段はきつといくつもあるだろう。そこから一つの手段を選び、やってみる。だめだったらまた違う方法で試してみる。『Try and error』をモットーにし何事にもチャレンジをする。学生のうちはいくら失敗してもいい。その中から自分に合った方法や手段を見つけ出す。ということも教わった。

しかしこういった能力だけがすべてではないということも学んだ。グローバル社会になりつつある今、私たちが社会人になるころには、外国人とともに働くことが当たり前になるだろう。その時のコミュニケーションをとるにあたって一番大切なのは、人柄である。ということも学んだ。人柄がよいと信頼されより仕事がうまくいく。また、あらゆる国の人たちとともに仕事をする中で自分の世界が広がり、仕事のやりがいが見えてくるそうだ。また、あらゆる文化や生活様式が体験でき、いろいろなことにチャレンジする精神が生まれるのではないかと考えた。そのような精神から新たなアイデアが生まれよりよい製品や商品が生まれてくると思った、これらが三菱商事の方々から私が教えていただいたことである。

午後からは、私達 f 班は、航空自衛隊及び航空関連の職業に就きたい生徒で集まったので、防衛省を訪れた。

初めに、航空自衛隊の広報部に案内していただいた。そこから航空管制官や航空機整備士、戦闘機パイロット、政府専用機パイロットといった自分たちが将来就きたい職業別に別れ、実際にいまそれぞれの職業に就いていらっしゃる方々からお話を伺うことができた。私は戦闘機パイロット志望なので戦闘機パイロットをしていた方からたくさんのお話を伺うことができた。

まず、戦闘機パイロットになる方法だ。一つ目の方法は、航空学生というものだ。この方法が戦闘機パイロットになるための方法のなかで最もメジャーなものであるらしく、全戦闘機パイロットの七割の方々がこの方法で戦闘機パイロットになっているらしい。さらに、この方法は高校を卒業した後に、自衛官となってから戦闘機パイロットになることができるため平均的に二十二歳から二十三歳には、もう戦闘機パイロットになることが可能である。残り二つの方法があるのだがこの方法が最も若い時から戦闘機パイロットになれるというのも、この方法の人気の理由でもあるらしい。二つ目の方法は、高校を卒業後、防衛大に入学し戦闘機パイロットになる方法

である。この方法でも二十五歳から二十六歳のころにはパイロットになることができる。三つ目は、普通の大学を卒業してから自衛官としての国家試験を合格してからパイロットになる方法がある。この方法はパイロットになることができるのが最も遅い方法で、全体の一割程度しかこの方法でパイロットになった方はいないという。しかし一度自衛官になるとどの方法で自衛官になろうと優遇があるわけでもなく平等にパイロットになることができる。

次に、航空機の機種についてである。戦闘機パイロットになるのか、輸送機のパイロットになるのか、それともヘリコプターのパイロットになるのか。これらのものは希望してなるのだが必ずしも自分の操縦したい機種のパイロットになれるわけではないようだ。さらに戦闘機パイロットは航空自衛隊に所属していないとなれないらしい。また、政府専用機といった特殊な航空機のパイロットになるには、まず、輸送機のパイロットになり、しっかりと経験を積んだうえで、選ばれた者しかなることができない。

最後に私たちがいまからやるべきことは、健康に気を配ることや周りの人たちとともに協力し合いたすけ合いながら生活していることを意識することである。

私は今回の東京研修に参加して本当によかったと思っている。たくさんのことを学ぶことができた。一度ですべてを行うのは、大変なことだが、一步一步前進できるよう努力し何事にも挑戦し他人に対して感謝することを忘れず、高校生活を送っていきたい。